

教科「国語」シラバス

I. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 国語 (科目) 古典演習 (理系)	2	高3 《理系自由選択》	「大学入学共通テスト演習 古典」(いいずな書店) 補助教材として適宜、センター試験や共通テストの過去問題のプリントを配布
学習の到達目標	共通テストで古文・漢文を必要とする理系の生徒が受講する授業特性に鑑み、古文・漢文のセンター試験や共通テストの過去問題及び共通テスト対応予想問題の演習を通じて、古文・漢文の総合的な学力の向上を目標とする。		
評価の観点	<p>《知識・技能》文章を正確に読むことが出来ているか。語句の意味、文法事項を正しく説明することが出来るか。定期考査、小テスト等で判断。</p> <p>《思考力・判断力・表現力》自分が読解した内容を的確な言葉で表現できているか。定期考査で判断。</p> <p>《主体性・多様性・共同性》多様な読みや解釈を踏まえて、自身の読みが出来ているか。文法事項のあやふやな生徒に授業内で教えることができるか。難解な文章に関して、周囲と協力して正しい現代語訳を作ることが出来ているか。授業中の取組みで判断。</p>		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの…… 80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D：未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考査 まで	①センター試験の過去問演習及び 共通テスト対応予想問題演習	センター試験の過去問に触れることで、高校2年生までに学習してきた古文・漢文の内容を確認するとともに、自分の弱点を認識する。及び共通テスト以前のセンター試験の形式や求めているものを理解する。不足している単語力や漢文句形を増やす。	
1 学期 期末 考査 まで	①共通テストの過去問演習及び 対応予想問題演習	共通テストの過去問題や対応予想問題に触れることで、共通テストの形式や新たに共通テストで求められるようになった力の錬成を目的とする。	
2 学期 中間 考査 まで	①共通テストの過去問演習及び 対応予想問題演習	共通テストの過去問題や対応予想問題に触れることで、共通テストの形式や新たに共通テストで求められるようになった力の錬成を目的とする。	
2 学期 期末 考査 まで	①共通テストの過去問演習及び 対応予想問題演習 ②必要に応じて国公立二次試験 の問題演習	共通テストの過去問題や対応予想問題に触れることで、共通テストの形式や新たに共通テストで求められるようになった力の錬成を目的とする。 また、受講者の希望に応じて国公立二次の記述問題の演習も行う。共通テストも間近に迫ってくるために、古文・漢文の力の完成を目標とする。	
3 学期 期末 考査 まで	自宅学習	自宅学習	自宅学習

【成績評価の概要について】

(1) 学期における評価の対象

中間考査 = 100点、期末考査 = 100点、平常点 = 50点（単語テストなど）

(2) 学期評定の算出方法

定期考査の素点合計200点に対し、平常点合計は50点とし（素点：平常点 = 8：2）、多面的評価を行う。

(3) 年度末評定の算出方法

定期考査の素点合計400点（1, 2学期分）に対し、平常点合計は100点（1, 2学期分）とし（素点：平常点 = 8：2）、多面的評価を行う。（2学期評定も同様）